

「グローバル関係学」2017年度第4回総括班会議 議事録

日時：2017年9月7日（木）午前10時から12時まで

場所：東京外国語大学 本郷サテライト 8階会議室

出席者：石戸、酒井、末近、鈴木（絢）、松永、山尾、（総括班）、石田、曾我（学術調査官）計8名、幸加木（特任研究員）

欠席者：五十嵐、高垣

酒井領域代表から、以下の報告事項の説明と提案があった。

① 新学術調査官の紹介

- 7月で退任された有村先生（早稲田大学）の後任として曾我謙悟先生（京都大学大学院法学研究科・公共政策連携研究部・教授）が着任された。

② 新領域の学理確立と計画研究の研究分担者の研究内訳の調整について

- 7月23日の「グローバル関係学」学理確立報告（松永、酒井、久保）を要約したものを作成し、そこで提示された共通要素・方針に沿って、各代表者、分担者に自身の研究がどのように位置づけられるのか、研究対象・テーマ・分析手法をどのように設定するか、分担者に記載して提出してもらうことにする。全体研究会を実施する都度、分担者は記載事項をブラッシュアップして、「グローバル関係学」の学理に対する共通認識を深めていく。

③ 2018年度の国際会議のテーマについて

- 主催・共催について、末近 B02 代表がハキミアン SOAS 中東研究所長との打ち合わせを繰り返して実施した結果（8月）、SOAS 中東研での開催は予算的にかなり高額になる可能性が指摘されている。東欧研究所との交渉については、現在先方の反応待ち。
- 上記の報告に対して、学術調査官から、国際会議の開催意義について質問があった。それに対して領域代表から、「発表を研究対象地の研究者を含めた世界の研究者に聞いてもらうこと、および研究組織間の関係を構築することを目的としている。新領域として確立された「グローバル関係学」を最終的には国際的にも評価されるように発展させていきたい」と回答があった。特に欧州で国際会議を実施することは、欧州各地で進展しているさまざまな研究プロジェクトを知る機会となる、との回答があった。
- 前回会議で持ち越しとした国際会議の共通テーマについては、「紛争」に仮決めし、詳細については今後、国際活動支援班会議で具体的に詰めていく。

④ その他

- 来年に予定されている中間評価などについて、意見交換がなされた。特に時期について、領域代表と計画研究の代表が書面提出した後、ヒアリングが9月に実施されるので、ヒアリング時には領域代表者の他、2人ほど出席し質問に応じて回答できるように準備する必要がある

る。その意味で、9 月前後には国際会議や海外調査が重ならないように調整したほうが望ましい。